

漁況情報 号外

平成28年7月21日発行

岩手県水産技術センター

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp5507/>

Tel: 0193-26-7915 / Fax: 0193-26-7920 / E-mail: CE0012@pref.iwate.jp

平成28年7月21日に、国立研究開発法人水産研究・教育機構より平成28年度 第1回太平洋スルメイカ長期漁海況予報が発表されましたので、内容を紹介致します。

常磐～三陸海域におけるスルメイカの今後の見通し(平成28年8月～9月)

- 1 来遊量: 前年並
- 2 漁期・漁場: 対象期間を通じて漁場となる
- 3 漁体: 前年並

<予報の説明(抜粋)>

対象魚種: スルメイカ

対象海域: 常磐～三陸海域

対象漁業: いか釣り、底びき網、定置網

対象魚群: 冬季発生系群(2016年級)

この海域の漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群れを主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群れが含まれると考えられる。三陸周辺海域(41°N以南、143°E以西)における漁場一斉調査でのCPUE(いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数)は前年並であったことから、太平洋沿岸域を北上する群れの来遊量は前年並と予測される(図1)。津軽海峡からの来遊量は前年並と予測される。以上のことから、**常磐～三陸海域への来遊量は前年並と予測される**(前年の漁獲量は、それ以前の5カ年(2010年～2014年)平均に比べて少なかった)。

第2回東北海区海況予報(水産研究・教育機構)によると、近海における7月の黒潮統流の北限位置は平年並であるが、親潮第1分枝の張り出しは極めて北偏で推移すると予測されている。また、水産研究・教育機構の海況予測システム(FRA-ROMS※)によると、常磐～三陸南部海域の8月の50m深水温は前年よりも高いと予測されている。したがって、沿岸域を北上する群れの移動が早く、常磐～三陸海域内で主漁場が北偏する可能性がある。魚体サイズは、漁場一斉調査の結果から、前年並の大きさの個体が主体になると考えられる(図2)。

※国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム

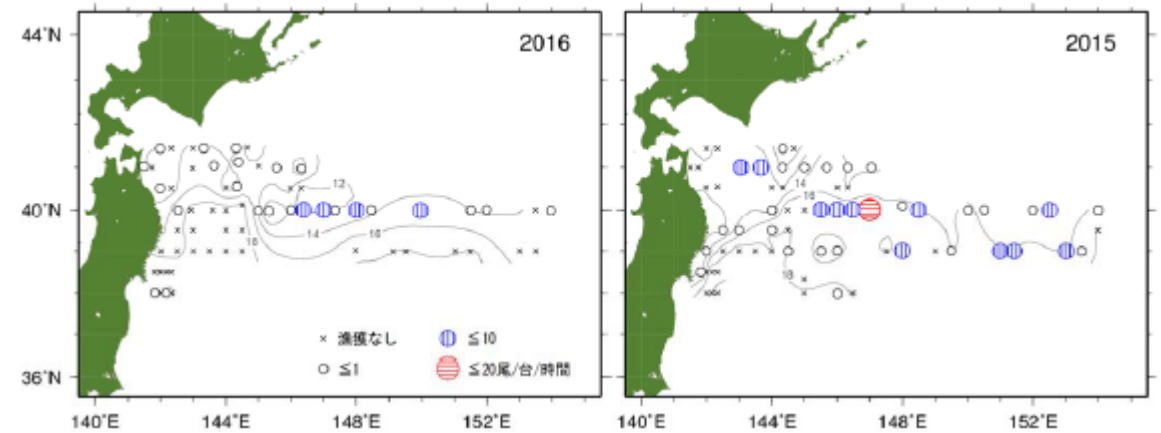


図1 太平洋第1次漁場一斉調査の結果

2015年、2016年6月上旬～6月下旬のいか釣りによるスルメイカのCPUE(いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数)の分布を左図右下の凡例にしたがって示し、実線は海面水温の等温線を示す

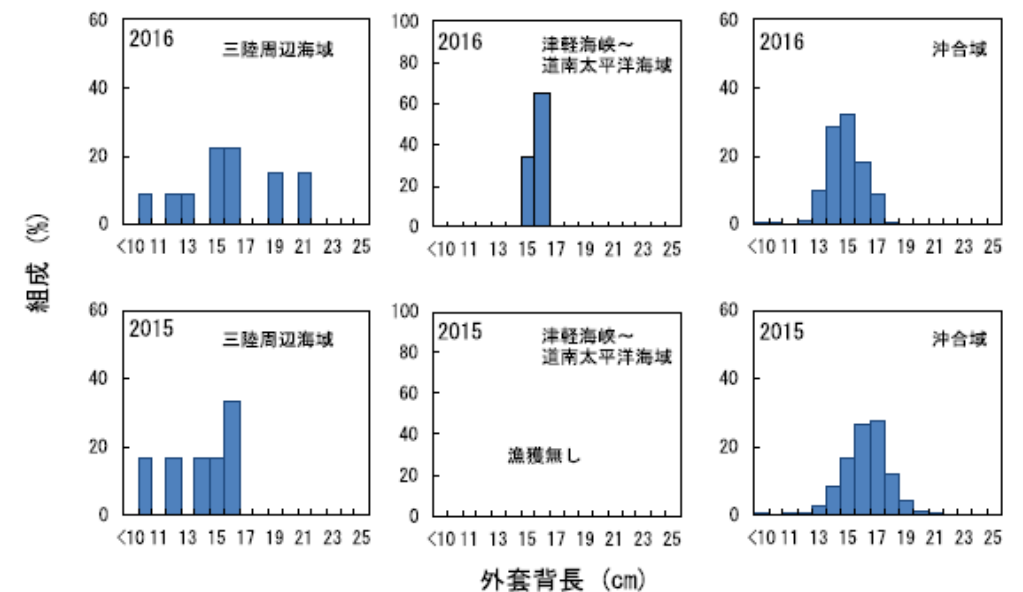


図2 太平洋第1次漁場一斉調査(三陸周辺海域・津軽海峡～道南太平洋海域・沖合域)による外套背長組成の結果

ご意見などは漁業資源部(担当:高梨)までお寄せください。

本予報の詳細については、国立研究開発法人水産研究・教育機構ホームページ

URL: <http://abchan.fra.go.jp/>をご参照下さいますようお願い申し上げます。